FD・SD 大学問題研究会

１．企画趣旨

大学問題研究会は、高等教育をめぐる諸問題や課題、近年の社会情勢、教育政策の動向やそれに対する対応方針等について、学内外から講師を迎え、参考となる話題を提供してもらい、本学の管理運営、教育研究の改革、改善、充実等に資することを目的としている。2025（令和 7）年度は、開始から 14 年目を迎え、ハラスメント防止、アントレプレナーシップ教育の実際、今日の中等教育におけるカリキュラム開発の実態、特別な教育的ニーズに関する合理的配慮の運用、BYOD や電子教科書の利用状況に関する講演会を年間で計 5 回にわたって開催した。

２．実施概要（開催日時・テーマ・参加者数）

これまでの開催は、以下の通りである。2025 年度は第 68 回目からの開催となる。

2012 年度	6 回
2013 年度	4 回
2014 年度	5 回
2015 年度	2 回
2016 年度	4 回
2017 年度	8 回
2018 年度	6 回
2019 年度	5 回
2020 年度	6 回
2021 年度	5 回
2022 年度	5 回
2023 年度	6 回
2024 年度	5 回

「第 68 回 大学問題研究会」

日　　時：2025 年 5 月 15 日（木）16 時 30 分～
実施方法：対面
テ ー マ：『ハラスメント防止研修～ハラスメントのない組織づくりにむけて～ 』
講　　師：株式会社シー・イー・アイ講師　社会保険労務士　白石　美和　氏
参加者数：教職員 190 名（教員 129 名、職員 61 名）

「第 69 回 大学問題研究会」

日　　時：2025 年 7 月 17 日（木）16 時 30 分～
実施方法：Teams によるライブ配信
テ ー マ：『学士課程改革の地平―アントレプレナーシップによる社会と大学の結合に関する実践を中心に―』
講　　師：日本工業大学イノベーション・起業教育センター長　教授　筒井　研多　氏

参加者数：教職員 196 名（教員 130 名、職員 66 名）

「第 70 回 大学問題研究会」

日　　時：2025 年 9 月 11 日（木）15 時 30 分～
実施方法：対面
テ ー マ：『高校生の学修の実態について』
講　　師：十文字中学・高等学校　校長　横尾　康治　氏
参加者数：教職員 195 名（教員 131 名、職員 64 名）

「第 71 回 大学問題研究会」

日　　時：2025 年 12 月 18 日（木）16 時 30 分～
実施方法：Teams によるライブ配信
テ ー マ：『大学における合理的配慮 ―基本的な知識と実践的な考え方』
講　　師：京都大学 学生総合支援機構 附属センター
ディスアビリティ・インクルージョンセンター　センター長　村田淳　氏
参加者数：教職員 198 名（教員 130 名、職員 68 名）

「第 72 回 大学問題研究会」

日　　時：2026 年 2 月 19 日（木）15 時 30 分～
実施方法：Teams によるライブ配信
テ ー マ：『BYOD の促進にあたって他大学の状況と電子教科書利用状況の紹介』
講　　師：株式会社内田洋行　大塚 輝　氏、蔦島 広泰　氏
NTT 東日本株式会社　　清野哲也　氏
参加者数：教職員 196 名（教員 126 名、職員 70 名）

３．まとめ

大学問題研究会は、十文字学園女子大学、十文字学園女子大学大学院における FD・SD 活動の一環として位置付けられた全学的な取組である。定期的かつ継続的に行うことで高等教育機関の教職員として必要とされる最新の知識や技術に関する理解を深め、ひいては大学・大学院全体としての教育研究活動、学務運営、社会貢献等に関する共通認識を深めることを目指している。

実施された講演は、いずれも高度な専門領域における最先端の内容であったが、近年の高等教育改革及び社会の DEI（Diversity、Equity、Inclusion）、さらには VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity and Ambiguity：変動性（不安定性）・不確実性・複雑さ・曖昧さ）といった背景において、本学の運営にいずれも不可欠なものであった。

講演会の実施方法については、昨年に引き続き、教職員が一堂に会して実施する参集型の対面形式に戻しつつ、オンラインでのライブ配信形式を併用した。さらに、当日の講演会に関する録画を配信するフォロー研修期間を設定したことにより、非常勤講師を含むより多くの教職員の参加を可能とした。

以上